

令和8年3月定例会

# 市長説明要旨

山 鹿 市

本定例会において、令和8年度の市政運営に関する私の所信を申し上げます。

## ■経済と社会の動向

はじめに、今月8日に衆議院議員総選挙が実施され、第2次高市内閣が発足し、新たな体制の下で国政運営が進められております。

このような中、国においては、長きにわたった「デフレ・コストカット型経済」から脱却し、「賃上げと投資が牽引する成長型経済」に移行するため、「生活の安全保障・物価高への対応」、「危機管理投資・成長投資による「強い経済」の実現」、「防衛力と外交力の強化」を3本の柱とした政策が行われているところであります。

また、熊本県においては、国内初となる回路線幅3ナノメートルの先端半導体を生産する計画が発表された、世界有数の半導体関連企業であるTSMCの第2工場の建設が進められています。この工場の新設は、本県が半導体産業における重要な拠点として国際的な期待を集める要因となっており、関連産業を含む地域経済への波及効果に大きな期待が寄せられています。本市といたしましても、この県内経済の好機を取り逃がすことなく、現在整備を進めております工業団地への企業誘致を積極的に推進してまいります。半導体関連産業などの、製造業をはじめとした多様な業種の誘致により、雇用創出

と産業基盤の強化を図り、持続可能なまちづくりを進めてまいります。

さらに、

今年の夏（7月～9月）には、JRグループ6社と地元行政、観光関係者が連携して実施する大型観光キャンペーン「デスティネーションキャンペーン（DC）」が本県で開催されます。本市においても、この絶好の機会を最大限に活かし、本市ならではの魅力を全国に発信し、観光振興と地域経済の活性化につなげてまいります。

## ■市政運営方針

それでは、「令和8年度における市政運営の基本的な方針」について申し上げます。

令和7年度末をもって第2次総合計画の計画期間が満了することを受け、策定を進めております令和8年度を初年度とする第3次山鹿市総合計画は現在、仕上げの段階を迎えております。本計画は、本市が目指す将来の姿と、その実現のために必要な取組をまとめた、まちづくりの羅針盤となる最上位計画であり、市民、事業者、行政が同じ方向を向き、力を合わせて本市の未来をつくるための共通の行動指針となるものです。

本計画では、本市の目指すべき未来ビジョンを「ずっと 住みたい 健幸都市 やまが」と決めました。これは、市民にとっては「住み続けたい」まち、訪れる人にとっては「住んでみたい」まち、そして多くの人から「選ばれる山鹿」でありたいという決意の表れでございます。

また、令和6年2月に行いました健幸都市宣言を踏まえ、市民一人ひとりが、心身ともに健やかで、幸せに暮らせるまちを目指すという強い思いを込めております。第3次総合計画において健幸都市の理念を中核に据え、「ひとの健幸」と「まちの健幸」を両面から推進してまいります。

未来ビジョンの実現に向けて、まちづくりのコンセプトに①「彩り豊かな『ひと』を育むまち」、②「地域資源を活かし、『しごと』を生み出し、『賑わい』を創出するまち」、③「快適な『暮らし』を続けられるまち」、④「支え合い健やかに過ごせる『健幸』なまち」、⑤「工夫しながら、わかりやすく、あたたかい『サービス』を届けるまち」の5つを設定し、合計23の施策を展開してまいります。

20年後、30年後の未来に向けて、長期的な視点と広い視野に立ち、人口減少、少子高齢化、DXの加速など、社会の大きな変化に直面する中、第3次総合計画に掲げる、5つのまちづくりのコンセプト

を通じて、山鹿市の魅力を最大限に活かし、誰もが「ずっと住みたい」と思える健幸都市を実現するため、市民、事業者、行政が一体となって、全力で取り組んでまいります。

## ■ 予算編成の考え方

次に「予算編成の考え方」について申し上げます。

令和8年度は、次の3つの考え方に基づき、規律ある財政運営を行ってまいります。

第一に、第3次山鹿市総合計画の着実な推進、第二に、持続可能な行財政運営体制の構築、第三に、予算原則に沿った規律ある財政運営であります。

限られた財源と人的資源で重点課題を解決するため、「選択と集中」を徹底し、令和8年度当初予算（案）を編成いたしました。

また、令和8年度は第3次山鹿市総合計画のスタートの年であります。総合計画の未来ビジョンである「ずっと住みたい健幸都市やまが」へ向けた戦略的な人口減少対策として、5つのまちづくりのコンセプトに関連する各種取組に重点的に取り組んでまいります。

このような考えのもとに編成しました、令和8年度の一般会計予算総額は、過去最大となります356億7,000万円となり、これ

に7特別会計と3企業会計を合わせますと、純計では570億9,493万4千円となっております。

## ■令和8年度に重点的に取り組む施策

ただ今の予算編成の考え方にに基づき、令和8年度においては、先ほど申し上げました5つのまちづくりのコンセプトに関連する各種取組みを推進してまいります。

それでは、コンセプトごとに重点的に取り組む施策の概要について申し上げます。

まず、1つ目は「彩り豊かな「ひと」を育むまち」であります。

### ①『「山鹿っ子」ICT・グローバル加速化』プロジェクトとして、

グローバル化とデジタル化が急速に進展する中、子どもたちが未来社会を生き抜くため、市内小中学校にICT支援員を派遣し、ICT機器等を活用した授業支援を推進します。また、小学6年生を対象に一部の小学校で実施してきたNintendo Switchを使用した山鹿版プログラミング学習を全校で導入し、プログラミング的思考力や論理的思考力を育成します。

さらに、小学校低学年では、外国語指導助手による英語の絵本読み聞かせを行います。その名称を「FUN(ファン)タイム」と題し、児童が親し

みやすい取り組みとして実施してまいります。また、幼稚園においても歌により英語にふれる取り組みを行い、英語への興味・関心を持たせ、英語教育への意欲を高めてまいります。

次に「地域資源を活かし、「しごと」を生み出し、「賑わい」を創出するまち」であります。

①『山鹿ブランドを武器にした「アグリ・スタートアップ」支援』プロジェクトとして、

農業後継者の減少により担い手が不足する中、農業の維持・発展のため、新規就農者の確保・育成を図るとともに、経営改善等に取り組む農業者への支援を行います。国の新規就農者育成総合対策を活用し、49歳以下の独立就農を目指す新規就農者に対して経営開始資金等の支援を行うほか、令和8年度から市独自の支援として、JA鹿本地域担い手育成センターの研修生に対し国の就農準備資金に上乗せ支援を行います。また、新たに農林業に従事して5年以内の方が農林業機械等を導入する初期費用を助成し、農林業への定着化を図ります。

さらに、西日本一の生産量を誇る「やまが和栗」の認知度向上に向け、官民一体となった「やまが和栗振興協議会」を中心に、生産、加工、観光が一体となって「日本一、和栗で稼ぐことができる山鹿市」を目指します。

また、全国トップクラスの生産額を誇るスイカや県内有数の生産額である、お茶・たけのこ・アスパラガスなどの農産物の産地を維持するために、関係団体と連携して担い手確保などに取り組んでまいります。

## ②『豊前街道を中心とした「歴史的まちなみ再生・創業パッケージ」の展開』プロジェクトとして、

豊前街道沿いに点在する空き家・空き店舗等を利活用し、歴史的・文化的な街並みの保全と新たなにぎわいの創出を図るため、建物の景観向上を兼ねた外観改修や内装工事等を行う方に対し、工事費用の一部を助成します。

また、若者や移住者が創業・開業しやすい環境を整えるため、空き店舗の改築や改修、家賃に係る経費の一部を助成するとともに、事業承継の促進や商工団体による継続的な経営支援を実施し、地域商業の活性化を目指します。

さらに、本市中心市街地の20年後の理想的な将来像と目指すべき方向性を示す「まちなかランドデザイン」については、令和8年度において具体的なアクションプランを策定することで、令和9年度以降に住民と行政、企業が連携して取り組む方向性を明確化します。これにより、本市ならではの魅力やライフスタイルを実現し、観

光資源である豊前街道の景観維持と若年層の新規開業を結び付け、市内外からの人を呼び込む流れを加速させてまいります。

3点目が、「快適な「暮らし」を続けられるまち」です。

**①『子育て世帯配慮型「次世代住宅ストック」の形成と周辺交通環境の整備』プロジェクトとして、**

県内への半導体企業の進出や市内の工業団地整備に伴う住宅需要に対応し、移住定住の促進を図るため、老朽化が著しい浦田団地について主に子育て世帯をターゲットとした再整備を行います。

また、山鹿市中心部及び旧町の中心部周辺を対象とした民間が行う住宅用地整備への補助を引き続き実施し、定住人口の増加と住宅用地の供給を促進します。さらに、生活道路の改良や上下水道施設の更新・耐震化などに計画的に取り組むことで、安全で快適な住環境の整備を進めてまいります。

**②「地域福祉と連携した個別避難計画の充実と見守り」プロジェクトとして、**

近年、豪雨等による大規模災害が頻発化・激甚化する中、「自らの命は自らが守る」意識を醸成し、市民全体で自助・共助の底上げを図るた

め、備蓄品の充実や自主防災組織の強化に取り組めます。また、自治会やケアマネジャー等と連携し、避難行動要支援者の一人ひとりに合わせた避難計画を作成するとともに、市民の防災意識の向上を図り、地域防災力の強化を推進します。

さらに、小学校の屋内運動場に空調設備の設置を進めるとともに、トイレの洋式化およびバリアフリー化を進めることで、児童の安全・安心を最優先に、健康と学習環境を支える基盤整備を行います。これにより、災害時の避難所としての機能も向上し、高齢者や障がいのある方を含む避難者が快適かつ衛生的に生活できる環境が整備され、避難所機能の強化を図ってまいります。

4点目が、「支え合い健やかに過ごせる「健幸」なまち」です。

#### ①『妊娠・出産から子育て期まで切れ目ない支援の展開』プロジェクト

トとして、

子育て世帯の経済的負担を軽減するため、令和8年度から第2子の保育料無償化を実施します。加えて、国の給食費負担軽減交付金及び物価高騰対応重点支援臨時交付金を活用し、令和8年度の小学校給食費の保護者負担を0円にするとともに、物価高騰分を補助することで中学校給食費を据え置きます。

また、妊娠・出産・子育てに関する相談窓口を一元化し、切れ目なく寄り添う支援体制を構築します。少子化対策として、不妊治療を受けた夫婦の負担軽減のため、令和8年度から保険内診療に加え先進医療も対象とし、それぞれ年度上限額5万円を助成します。また、妊産婦健診、乳幼児健診、産後ケア事業などを通じて母子の心身の健康を守るとともに、子ども総合相談窓口において養育環境や家庭教育、不登校、障害等の相談を総合的に受け付け、関係機関と連携した継続的な支援を行います。

これら経済的支援と精神的ケアにより、妊娠・出産から子育て期までお子様の成長を見守り続けてまいります。

## ②「重症化を防ぐ『一人ひとりに合った支援・予防訪問』の展開」プロジェクトとして、

プロジェクトとして、  
高齢者の加齢により心身が衰えた状態であるフレイル対策等の介護予防と、生活習慣病等の疾病予防を一体的に実施し、健康寿命の延伸を図ります。健診データや医療機関の受診データ等により対象者を抽出し、未治療者や治療中断者を最優先とした訪問等の支援を実施します。

また、熊本県は肉の消費量が高く、本市でも肉類や揚げ物の購入が多い傾向にあります。加えて、車利用により運動の機会が少なく、週2回

以上運動する市民の割合は県平均より低いため、適切な運動など生活習慣の改善・予防が必要であると考えております。

このようなことから、生活習慣病の重症化や再発を予防するため、心臓病・糖尿病・高血圧予防を重点項目とし、健康教室の開催などや既存事業の見直しにより、介護認定率の低下、医療費の削減に向けて取り組んでまいります。

さらに、湯治場として親しまれてきた良質な温泉を活かし、現代版の湯治として本市の温泉と豊かな自然や歴史資源、食文化を活かした滞在型温泉利用を促進します。令和8年度は、温泉滞在型旅行商品開発や温泉保養都市の持続可能な体制づくりを調査研究し、温泉を活用した健康づくりと観光を融合させ、住む人も訪れた人も健幸になるまちづくりを推進してまいります。

### ③「地域課題解決型『山鹿ソーシャルビジネス』の育成と協働推進」

プロジェクトとして、

人口減少等に起因する地域課題を、ビジネスの手法で解決するため、女性起業家を含む地域事業者を対象とした「やまが未来創造塾」を引き続き実施します。「産官学金」による支援体制により、地域資源や自身の強みを活かした持続可能な新たなビジネスモデルを創出するローカルイ

ノベーターを育成します。また、高校での連携講義を通じて未来創造塾修了生と高校生を繋ぐことで、地域への愛着を深め、地域に関わり続ける人材の育成につなげます。

さらに、市内の中高生を対象とした「山鹿創生塾」では、ワークショップを通じて本市の観光・産業・文化への理解を深めるとともに、郷土愛を醸成し、地域で活躍できる機会を広げることで若年層の地域定着と、将来の担い手育成につなげてまいります。

最後に、「工夫しながら、わかりやすく、あたたかい「サービス」を届けるまち」です。

#### ① 公共施設予約システムの導入 について、

本市では多数の社会体育施設や社会教育施設などの公共施設を運営しておりますが、パソコンやスマートフォンを利用して空き状況の確認や予約、支払い(決済)が可能となるシステムを導入し、利便性の向上と業務の効率化を図ってまいります。

#### ② フロントヤード(窓口改革)事業 について、

現在、窓口での各種手続きにおいて、申請書の手書き記入が、利用者にとって手間と時間がかかる要因となっており、特に高齢者や外国人な

どに負担となっている状況です。そのため、多言語対応の「窓口申請書作成システム」を導入することで、来庁者の書く負担を軽減し、加えて窓口での確認作業の時間短縮につなげ、さらなる住民の利便性向上と、安定した住民サービスの提供を目指してまいります。

## ■結びに

以上、令和8年度の市政運営や予算編成に当たっての、私の基本的な考え方と施策の概要について申し上げます。

本日から22日間にわたりご審議いただきます議案は、予算22件、条例11件、人事案件9件、その他4件の計46件及び報告3件でございます。これらの諸議案の内容につきましては、担当職員が説明いたしますので、よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。